

平成 28 年度 第 10 回益田市子ども・子育て会議議事録

日 時：平成 28 年 9 月 26 日（月）午後 1 時 15 分～午後 3 時 30 分

場 所：益田市立保健センター3 階大ホール

出席者：

（委 員）石橋会長、高島副会長、山下委員、永見委員、渋谷委員、小林委員、
吉村委員、田屋委員、大庭委員、積田委員、

（事務局）福祉環境部 村上推進監
子育て支援課 石川課長、原所長、中山参事、石田課長補佐、内田主幹
石田係長、齋藤係長、桐木主任
社会教育課 大畑課長、澤江派遣社会教育主事
美都総合支所住民福祉課 吉野課長

< 次第 >

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

- (1) 益田版放課後子ども総合プラン「第 1 期アクションプラン」について
- (2) 各施設のあり方等の意見集約について
- (3) その他 ○次回の会議開催について

～挨拶～

○村上推進監

皆さん、こんにちは。本年度第 2 回目子ども・子育て会議となります。

5 月に開催してから、この間、各児童館の在り方検討委員会並びに子育て支援センターの在り方検討委員会に関する部会を立ち上げていただき、精力的に各職場に足を運び検討していただきましてありがとうございました。

本日の議題においても、子育て支援センターについては現状の報告と児童館については一定の方向性も見えてきており、その状況等についての話をさせてもらう予定です。

また、子ども・子育て事業計画の中に位置づけられています「益田市版放課後子ども総合プラン」の「アクションプラン」について、担当部局とで協議した内容を第 1 期の計画として策定しましたので、その内容についての意見もいただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

○前回欠席委員の紹介

（渋谷委員）

（小林委員）

○石田課長補佐

議事の進行につきましては、益田市子ども・子育て会議設置規則により会長が議事進行を行うこととなっておりますので、石橋会長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

～議事1【益田市版放課後子ども総合プラン「第1期アクションプラン」について】～

○石橋会長

みなさんお疲れ様です。

早速ですが、議題に入りたいと思いますのでよろしくお願いします。

これまでの間、各部会において協議を行い、ある程度の方向性も見えてきておりますので、その内容について会議の中でご審議いただきたいと思います。

まず、「(1) 益田版放課後子ども総合プラン「第1期アクションプラン」について」、担当者から説明していただきますのでよろしくお願いします。

○澤江社会教育主事[要点の説明]

益田市の「子ども・子育て支援事業計画」の中に「放課後子ども総合プラン」があります。

更にそれを推進するために「第1期のアクションプラン」を子育て支援課と社会教育課が中心となって策定しました。

子ども達の目指す放課後の姿をはっきりとさせることを目的として「益田市のめざす放課後」として、「すべての小学生が益田の良さを体感できる豊かな放課後」の実現のため、5つの要素を決定し、それに向けて進めていきたいと考えています。

併せて、保護者にとってもこのプランが意義あるものになるため、保護者の視点に立った内容として策定しています。

具体的なプランとしては、「推進体制の整備」、子ども達の体験をどう豊かにするかを検討し、「益田っ子体験プログラム(仮称)」を実施したいと考えています。

また、このプランの趣旨について、保護者や地域住民に理解してもらうための啓発、研修を充実させていきたいと思っています。

推進体制についても、市内の運営委員会を中心にプランの推進状況を確認しながら随時変更して進めていきたいと考えています。

○石橋会長

「つろうて子育てプロジェクト」についての説明をお願いします。

○澤江社会教育主事

平成26年度から「つろうて子育てプロジェクト」はスタートしています。

「つろうて」とは益田弁で「一緒に」という意味で、地域ぐるみで子どもの育ちを支えていこうというプロジェクトです。

主に各地域での体制づくりや具体的な活動づくりを通して、子どもの育ちに関わる大人を増やしていき、それにより子ども達が様々な体験ができる地域づくりをしていくことを目指しているもので、今年で3年目となります。

○山下委員

ボランティアハウスについて、益田市市内の「放課後こども教室」が全てボランティアハウスなのでしょうか。

○大畑課長

そうです。

○山下委員

文部科学省・厚生労働省から通知において、「学校支援本部」を作るとあるが、益田市の推進体制の中でこういった位置づけとなるのでしょうか。

○大畑課長

学校支援本部は、昨年12月末に文部科学省から「地域学校協働本部」として、地域づくり・子育ての全てを包括した地域組織を作っていくという指針が出ております。

益田市としてはそれを目指しており、学校支援本部という形で包括しており、つろうて子育て協議会と公民館が一緒になった体制づくりをしたいと考えています。

○山下委員

文部科学省のHPにも全国の状況が載っていますが、益田市では「教育共同化推進本部」とありますが、これは何でしょうか。

○大畑課長

学校支援本部の益田市がとっていた形であり、当時学校で地域の方々の力を活用する際に、共同本部にいる地域のコーディネーターが、コーディネートするために設置しました。

学校支援本部的な動きだったものが、現在は共同という形となり、更に学校外のところでも積極的に活動できる人達の集まりにしようとして統合したものです。

○大庭委員

総合プランの実施については、公民館が主体となるのでしょうか。

○大畑課長

現在は、公民館がつろうて子育て支援協議会の事務局になっています。

基本的には、公民館事業として実施するものもありますが、つろうて子育て協議会の中で、様々な方が子ども達の活動を作る形で運用することを目指しています。

○大庭課長

理想は理解するが、公民館が動かなければ計画が実現しないことになるので、その点については、公民館に周知徹底してもらいたい。

○大畑課長

子ども達の子育て環境を豊かにする理由としては、今現在で益田市におられる保護者の方が、子育てをしたいと思える環境を作ることと、益田で子育てをしたいと選択するU・Iターン者を増やすことが必要であると思っています。

人口減に関しては、就労等の大きな要素もありますが、子育ての環境については、移住について大きな選択肢となっていると聞いておりますので、地域にとってもプラスになることを公民館等に対しても説明していきたいと考えています。

○吉村委員

保育園・保育所の低学年受け入れ事業について、保育所としてアクションプランの中で、どのように受け止めていくべきと考えているのでしょうか。

○大畑課長

子ども達の育ちの課題については、学校教育や社会教育の現場において、様々なプログラムが行われています。

子ども達の育ちという視点をもって、アクションプランの3年間で具体的に数という形で盛り込んでいき、地域の方に関わりをもってもらいながら、実施主体は様々であっても、子ども達の育ちが実感できるようなプログラムになるように考えています。

保育所についても既に地域との交流が実施されていると思いますので、低学年についても同様に、一緒に交流することを検討していただければよいのではないかと考えます。

○吉村委員

第1期アクションプランの5つの要件の中の、「推進体制の整備を進めます！」の中に「保育所」が入っていないので盛り込んでもらいたい。

○齋藤係長

推進体制の整備の中に保育所についても追加します。

○石橋会長

第1期アクションプランについても、今後第2期・3期と続いていく計画となります。現在は、叩き台ということで記載してある内容についてはとても良い内容だと思います。今後、益田市で子育てがしたいと思えるような素晴らしいプランになればと思います。

○高島副会長

ボランティアハウスと放課後児童クラブの一体化や連携について、ボランティア集団と職業集団との違いにより、子どもへの思いは一緒であっても現実的に難しい面があると思っています。総合プランについて、とても良い計画であっても、共に協議をして責任の所在やルールを決めていかないと現実には厳しいと思います。

一番最初に立ち上げられ、モデルとなっておられた横田地区のボランティアハウスについても、後見人がいないため休止となっておられ、厳しい面があると感じています。

放課後児童クラブの遊びの領域だけでなく、学習面も含めて、色々な面でフォローを行い、共同していくことが必要であり、子ども達と一緒に実現する必要があると思っています。

学校の中にある施設については、特に中心になって一体化連携を国はもちろん益田市としても進めているというアクションを起こし、待っているだけの状態で無く、積極的に話し合いを実施する必要があるのではないかと思います。

未設置校区や休止校区について、今後どのように考えているのでしょうか。

○澤江社会教育主事

横の連携については、つろうて子育て協議会において、子どもの育ちに関わる人達で横の繋がりを作って活動する必要があると思っています。

ボランティアハウスと放課後児童クラブについては、連絡会という形で学校とも繋がりを作り、子どもを中心に置いて、これから話を進めていければと思っています。

吉田小学校、吉田南小学校についても、同じような形で月に一度連絡会を開催しており、今後具体的な活動づくりが出来ればと思っています。

横田地区については、ボランティアハウスと児童クラブを一体化型としてスタートしましたが、児童クラブの人数は増加したが、ボランティアハウスのボランティアの減少により休止となっています。

現在は、地域全体に呼びかけを行い、つろうて子育て協議会の中で体制づくりを行い、再度一体化に向けた準備をしている段階となっており、今後地域全体の組織づくりを行い復活させる予定となっております。

○大畑課長

地域の中で、自治組織との関係もあり難しい面もあり、整理がつきにくいところもあると思いますが、地域の方については、全体で子どもを支える気運はしっかり持っておられることから、新たな一体型のモデルになると思っています。

放課後児童クラブやボランティアハウスに子どもを預ける保護者に対して、毎年きちんと益田市全体での取り組みを繰り返し伝え、確認する場を設けることが重要となっています。

今年度も就学時健診時に保護者に対して、益田市として子どもの育ちを考えている途中であることを伝え、地域の方の力を活用して、子ども達を育てることについての説明会を開催する予定となっています。

○高島委員

連携会議の開催について、支援員は参加しているのでしょうか。

○澤江社会教育主事

学校、支援員、ボランティアと行政が参加しております。

○高島委員

様々な子どもを支える各種の団体において、その関わりのある人達も色々な子どものくくりが在りすぎて、どういう風に子どもに関わっていくべきか悩んでいる方も地域の中にはおられると聞きますので、子どもの育ちに関わる部分について、一つであればよいと感じています。

○大庭委員

自治組織との関わりについて、どういう位置づけとして考えればよいのでしょうか。

特につろうて子育て協議会との関係を一緒になって考えていく必要があると思っています。

また、学校を拠点にということですが、地域にとって学校が集いやすい場所になっているとは思えず、色々な問題により地域にとって、どんどん負担が増えていると感じています。

○大畑課長

自治組織をなぜ立ち上げたのかというところを人口拡大課とも話をしています。

地域の中で、将来地域に帰ってくる子ども達を育てていくことは、自治組織が実施する事業と同義だと思っており、どのように組み込むかを各地域で一緒になって相談していきたいと思っています。

つろうて子育て協議会という名称にもこだわってはならず、地域全体で子ども達の育ちをしっかり支えながら、保護者も安心して地域の中で一緒に子育てしていると実感できること、また是非ここで子育てをしたいと思える環境を作ることを自治組織と連携して作り上げていきたいと思っています。

○山下委員

学校を拠点にということですが、どこまで具体的に話があるのでしょうか。

現在の設置状況についてですが、放課後児童クラブについて10校区となっていますが、既に学校の空き教室を利用することの了承を得て、実施しているのでしょうか。それともこれからなのでしょうか。

○澤江社会教育主事

現在の設置状況の資料について、「●」黒丸については、学校内に児童クラブが設置してあるところです。

○大畑課長

学校の拠点についてですが、現在公共施設の複合化や統合についての話があり、放課後児童クラブについても、新たに施設を建設するのではなく、学校の施設内を活用していく考え方があります。

主に中山間地域において、老朽化の施設が多々あることから、耐震化等で整備されており、大きな面性があり、多様な機能のある学校を地域の拠点施設とする考え方の中にも含まれていることが、学校拠点化の一つの背景となっています。

○山下委員

平成31年度までの3年間には、「現在の設置状況」に記載のある「○」白丸についても「●」黒丸となるような仕掛けを作成されていくと解しますが、益田市民全体に対しての分かりやすさが必要になると思います。

クロス集計結果からも「安心して子育てできる」等と回答している保護者ほど、将来子どもが益田に住んでほしいと思っている割合が高いことから、3年間でアクションプランが成功すれば、益々若い世代の家庭の中で、定着率が上がってくると思っています。

学校を拠点として放課後児童クラブを実施するという仕組みとアクションプランにある公民館を主体とする仕組みについては、どう繋がっていくのでしょうか。

○澤江社会教育主事

「豊かな放課後にするための5つの要素」の中で、「多様な体験・活動」としてはありますが、実際には、どんな活動をすればよいかということは、数値として現すのは難しいと思っています。

そこで、益田っこ体験プログラムと位置づけ、現在12中学校区でふるさと教育マルシェを開催しており、保小中で一環したテーマを決めてプログラム作りをしています。

各地区で具体的なテーマを決めて活動を行い、体験活動プログラムとして地域の子ども達が体験できるような仕組みづくりをしていきたいと思っています。

今後は、各地域で作られた12個のプログラムを地域の枠を越えて体験することにより、市内の全ての子どもが、益田の良さを体験できるという仕組みが作れるのではないかと考えて準備を進めています。

○山下委員

専門用語がたくさん並んでいますので、是非モデル地区を作って地域に説明した方がイメージしやすいと思いますので検討していただきたい。

○大畑委員

一体化しているイメージが分かる事例を示したり、体験プログラムの紹介のパンフレットを作り、来年4月に向けて保護者等への説明会が開催されますので、そこで周知をしていきたいと思っています。

豊川地区については、「将来益田に住んでほしい×体験活動ができていると思う」というアンケートで90%となっており、地域での活動が充実しているところは、保護者の満足度も上がっており、大きな効果となっている取り組みと認識しています。

○石橋会長

具体的な事例があった方が理解するにもよいと思いますし、幅が広い分野なので、それを一つにまとめていく3年間はとても難しいと考えますが、子どもにとって、どこの地区にいても出来るんだというプランを是非現実的なものにしてもらいたいと思います。

～議事2【各施設のあり方等の意見集約について】～

○石橋会長

続いて、「(2)各施設のあり方等の意見集約について」ですが、子育て支援センターと児童館について、あり方検討部会を開催して協議されておりますので、その状況等について報告をお願いします。

まず、子育て支援センターの部会の状況について報告していただきますが、安藤委員が欠席となっておりますので、原所長より回答していただきますのでお願いいたします。

○原所長[要点の説明]

※別紙の「益田市子育て支援センターのあり方検討の状況について」により中間報告を実施。

○石橋会長

あまり議論が深く進んでいない状況で、施設についても初めて入った委員の方もおられますので、まずそのあたりの理解度を深めて行きたいと考えております。

○山下委員

今後も計画に沿って検討するとのことですが、どの地域からの利用者が多いか調査されていまずでしょうか。

○原所長

昨年度の利用者数は12,500人程度で、その中で550の世帯(親子)の利用となっております。

今年度の4月から8月までの利用者は、0歳児が160人でした。益田市の出生者数が300人程度であることから考えると利用数は多いと思っています。また、近隣の市町村や県外の方や里帰り出産の方が18%程度あります。

地域としては、益田・吉田・高津に居住の方の利用が多くなっていますが、何%かまでは直ぐにお答えできません。

○山下委員

子育て支援センターは子育て支援にとって重要な施設であると思いますが、中心部以外に居住している方については、地域でどのように相談したり、保健師のケアを受けたり出来るのか、地域サロンについても教えてもらいたい。

○原所長

地区の全戸訪問や地区の委嘱助産師や母子推進員が担当されており、地区ごとのフォローを子育てあんしん相談室で実施しておりますので、子育て支援センターとの連携によって、フォロー体制を構築しております。

子育てサロンも各地に開設されておりますので、そことも連携しており、子育て研修への参加やファミサポの支援者を生みだしたいと思っております。

○山下委員

ネットワークの拠点としての子育て支援センターが必要であるという意見があるのであれば、指定管理者制度の導入について、そういった要望にも対応できるのかということも踏まえて検討していく必要があると思います。

○石橋会長

子育て世代ということでも意見をいただけたらと思いますが、父親の子育てへの参加について、どのように感じられておられるでしょうか。

○田屋委員

保育園連合会でアンケート調査を実施しており、昨年度より父親の保育への参加率は高くなっていますが、まだまだ少ないのが現状でした。

子育て支援センターについて、利用しているという父親は皆無であり、存在自体も知らない父親もおり、どうしても母親だけのネットワークになっていると感じます。

市としても父親に対してもっと情報提供したり、父親が参加しやすい機会を設ける必要もあると思います。

豊川保育園では、父親の会という会を開催しており、父親が企画して子ども達や他の父親とつりやスキーに行ったり、パンを作ったりという、父親をメインにした企画を実施しています。

それでも、参加者は保護者世帯30数人中5・6人程度ということを見ると、益田市全体としてネットワークを作るとなると、もっと違った企画を立案する必要があると思っています。

○原所長

子育て支援センターについては、保育園や幼稚園に入るまでの在宅で子育て中の親子が利用するのがほとんどで、土・日曜日にも利用できるように開園しております。

長年「だっこの会（第1子0歳児の会）」を開催していますが、母親については、友達になったり、悩みの話し相手になったりとして活用されておりますが、父親にも参加してもらいたいことから、土・日曜日に年に数回開催し、5・6組程度の参加があります。

今後は、もっと父親が参加しやすい形を考えて行く必要があると思います。

○石橋会長

現在は、あり方検討部会の途中であり、今後もっと深い議論をしていく必要があると思います。

山下委員が言われたように、今あるネットワークを活用し、どの地域においても利用できることが大切であり、家庭としても行きやすい施設であることが重要であることから、それらのことを踏まえて議論していただければと思いますのでよろしくお願いします。

～議事3【その他】～

続いて、児童館のあり方検討部会を開催して協議されておりますので、その状況等について報告をお願いします。

○齋藤係長[要点の説明]

※別紙の「益田市児童館の今後のあり方に係る意見集約について」により報告を実施。

○高島副会長

部会としては、各児童館に訪問して直に現場の状況を見ながら計3回開催しました。

また、その間には各児童館によって事業内容や利用状況が異なることから、地域の実情を把握するために、各児童館の運営委員会を開催してもらい、意見集約も実施してもらっています。

各児童館の運営委員会での報告を聞いた、あり方検討部会の委員の意見としては、別紙の「各児童館運営委員会の意見に対する部会委員の意見」としてまとめられています。

最終的に、これまでのあり方検討部会の意見を踏まえて、報告書として「益田市子ども・子育て会議 児童館のあり方検討部会 報告書」として委員のみなさんにお示ししております。

この中で、報告書の4ページに示しております「児童館のあり方に係る提言（案）」の内容について、審議していただき、子ども・子育て会議としての提言としていただければと思います。

○石橋会長

児童館のあり方検討部会としての報告については、高島副会長より説明のあった内容のとおりとなります。

最終的に、この会議の中で審議していただいたものを、子ども・子育て会議の提言書として提案することとなりますので、皆さんの意見等をいただければと思いますのでお願いします。

○石川課長

児童館のあり方部会の委員の皆さんには検討期間の短い中で、多くの意見をいただき、報告書もまとめていただきまして大変ありがとうございました。

児童館については、昭和23年に児童福祉法が施行され、昭和26年には児童厚生施設の運営要領が制定され、昭和38年に国の補助を受けながら、全国的に児童館が建設されたという経過があります。

時代のニーズも大きく変わってきており、地域の状況や使われている状況も違ってきていますが、存続についての地域の強い要望もありました。

市の検討期間も短く、提言書にもありますように、もう少し検討する期間をもつことが必要であると考えております。

しかし、建築年数も古く、公共施設の見直しについての議論もあることから、そちらとの整合性も図りながら検討する必要があると思っています。

○永見委員

児童クラブとボランティアハウスの開設日数はどのようになっているのでしょうか。

また、その施設が同じ学校にある場合、児童クラブとボランティアハウスとの関わりは、どのようになっているのでしょうか。

片方では遊ぶ子どもがおり、もう片方で宿題をする子どもがいるのは、とても良い環境であるとは言えないと思うが、市の方針としてそうなっているのでしょうか。

よりいい環境で、学校に併設して活動できればもっと有効だと思うがどうでしょうか。

児童クラブとボランティアハウスの職員の処遇はどのようになっているのでしょうか。

福祉関係の会議と教育委員会関係の会議で同じような内容のものが多数あるが、一つに絞ることは出来ないか、大きな課題ではあるが、それが出来てこそ本当の連携となるのではないのでしょうか。

放課後子ども総合プランについて、小学校以上の児童が対象となっているが、市が望むより良き子どもが育つためには、乳児や幼児の期間が非常に重要であると考えます。

3歳までに80%の人間性が育つと言われていますが、プランの中に乳児や幼児についての視点を入れる方が、より効果があると思います。どのように考えておられますか。

○石川課長

児童館の活用についてですが、飯田児童館については、他の3つの児童館と状況が少し違い、放課後児童クラブを併設していません。

ボランティアハウスについては、児童館と開設場所が違い、開設日数についても月に一回や週に一回として、施設によって運営しておられます。

放課後児童クラブについては、年間290日以上を開設をお願いしており、市からは委託料として、支援員の人件費として支払いを実施しております。

ボランティアハウスについては、地域のボランティアの方となり、基本的には無償で色々な体験活動を実施しておられますが、処遇としては当然違ってきます。

ボランティアハウスと放課後児童クラブの連携については、ボランティアハウスで実施する様々な体験活動に、放課後児童クラブの子ども達も参加して連携しております。

放課後子ども総合プランの中に乳幼児に関する内容がないということですが、子ども・子育て支援事業計画の中にあります、放課後健全育成事業計画に係る国が示しております、放課後子ども総合プランとリンクをしながら、子ども達の放課後の過ごし方という視点で作成しております。

その中で、小学校・中学校の放課後の過ごし方を主とした計画となっておりますことから、乳幼児についての計画まで記載しておりませんが、実施計画の中での取り組みが必要であると考えます。

○永見委員

乳幼児についても、実施計画に含めた形で取り組みを実施するということですので、大切をお願いしたいと思います。

ボランティアハウスの体験活動については、連携して実施しているとのことですが、放課後児童クラブとボランティアハウスが併設されていない場所については、どのようになっているのか。

○齋藤係長

放課後児童クラブとボランティアハウスの連携についてですが、市内の全ての施設が併設されていませんので、連携が不可能な場合もありますが、夏休み等においてあらかじめ実施時間が決まった活動があれば、放課後児童クラブの児童がボランティアハウスに移動して一緒に活動を行

うことがあります。

○渋谷委員

「来年度には児童館が無くなる」と思われている地元の声も聞いている。

まだ、決定していることではないので、情報の発信には注意が必要であるとする。

また、提言書にある「指標」についてですが、PDCAサイクルの指標については、作成が難しくなると考えます。

行政側が指標を厳しくするというのであれば、児童館側も納得する方向で資料を作成する必要があることから、指標の作成については大変だと思います。

○齋藤係長

提言書にある指標についてですが、これまでの児童館の活動をより活発にするためにも必要であり、児童館を継続して運営していく場合にも、仕様書にはその旨を盛り込んだ形としたり、指定管理者に対しても相談をしていきたいと考えています。

○積田委員

ボランティアハウスについてですが、運営についてもそれぞれ異なっており、一学期に数回開設しているところや毎日開設しているところ、一週間に数回だけ開設しているところもあり、地域やそこに携わる人達によって状況は違っています。

放課後児童クラブとの連携についてですが、連携が上手く出来ているところもありますが、ボランティアハウスについても、保険の加入の関係もあることから、募集をかけて子ども達を会員として登録しております。

例えば、一つの学校でイベントを実施する場合であっても、全員が参加できるわけではなく、会員の中で都合のつく子どものみが参加することとなり、放課後児童クラブの児童だけを参加させることは難しい面があります。

放課後児童クラブの支援員の意識とボランティアハウスのパートナーの意識が違うことから、人の意識の連携からも難しい面があると思います。

ボランティアハウスのパートナーについては、子ども達のためにという思いもありますが、年齢によっては、自分達の楽しみの一つとして、子ども達と関わり、喜んでくれる姿を見るためということもあり、他の組織と摺り合わせたり、気苦労して調整するまでは、望んでいないと感じております。

それらのことから、ボランティアハウスごとに開設日についても差があるのではないかと思います。

○永見委員

アクションプランについても、ボランティアハウスと放課後児童クラブとの連携について記載があります。

そのためには、福祉部局と教育委員会部局とで連携を図ることも必要ですので、積田委員の話を参考にいただき、それを実現するためにどうするか考えていかないと、現実的には上手くいかないことであると考えます。

○小林委員

飯田地区の児童館の運営委員会の委員にもなっておりますので、そちらの立場からの意見を言わせてもらえばと思います。

市が児童館の運営委員会で説明された際に「松江地区や出雲地区等の他の地域では児童館は運営していない」ということで、廃止ありきの説明でスタートしていました。

運営委員会としても、頭ごなしに廃止ありきでの説明となれば、出せる意見も出せなくなり、話し合いとしては、いかがなものかと思いましたが、児童館の運営委員会の資料を見ると、同様な意見の記載があることから、市としてもきちんと受け止めはしてもらっていると理解しました。

提案書をみると廃止ありきではなく、ある程度は継続していく方向があることで、少し安心しましたが、児童館としても、現状に甘んじるのではなく、今の時代にあった使い方や運営を考えていく必要があると感じました。

飯田地区は放課後児童クラブが併設しておらず、ある程度他の地区と比べてやりやすいのではないかと思います。

飯田地区以外の児童館については、施設の老朽化や土地の形状、放課後児童クラブ優先の利用状況等も聞き問題も多く内在しています。

高津地区については、近くに遊び場所が少なく、どうしても小学校や放課後児童クラブ等に限られていますので、共有場所としても使える形が必要でもあると感じております。

提案書の中で指標の話がありましたが、指標はあくまでも目標であることから、実行していく段階で問題や計画の変更が必要であることから、一年を待たずに早い段階で修正等を実施する必要があると感じました。

○石橋会長

運営委員会の方の意見を聞くことができ、色々な方の考え方があることも理解できたことは、非常に大事なことであると感じました。

益田市は児童館が県内でも多くあるとのことですが、県下の状況としてどのようなものになっているのでしょうか。

○山下委員

児童館については、池田内閣の人づくり政策からきているとのことで、母親クラブや子ども会と同じように組織され立ち上がったものであり、昭和の時代の組織であります。現在は衰退している状況にあります。

新しい保護者世代で出来上がった放課後児童クラブによって、影が薄くなっている部分はありますが、必要としている人がいるのであるならば、維持していくことも必要であると思います。

報告書にもあるように、児童館を直ぐに廃止するというのは時期尚早で、3年をかけて市民が実態を知り、納得した上で変換が大事であると思います。

また、アクションプランについても3年間ということ、その他の組織との関わりについての見直し等と併せての検討が必要であると思います。

報告書の7ページの「児童館利用状況」の表について、益田・吉田・高津の「放課後児童クラブ対象外」の利用人数について、放課後児童クラブの利用人数を並列して記載してあれば、どちらがどれだけ活発に利用しているのかが分かりやすく、それにより市民に実態を理解してもらうことができると思います。

その上で、3年間のアクションプランの集計とともに、放課後の過ごし方も益田の中で変わっていけば、2年目・3年目にもう一度意見を取り纏めて段階的な集約が可能になるのではないかと思います。

○齋藤係長

ご指摘のあった意見を元に、放課後児童クラブの利用人数についても比較しやすいように加えていきたいと思っております。

○石橋会長

アクションプランと児童館のあり方について、どこかで上手くリンクして、これから2年・3年かけて、益田の子ども達が生まれた時から旅立っていくまでに、上手く生活できて、生きる力を養っていくことができるかが大事なことだと思っています。

最終的に、子ども子育て会議として、報告書を提言書として市長に提出することとなりますが、ご意見等はありますでしょうか。

○大庭委員

報告書については、子どもの目線に立った上での話しとはなっておらず、先程地域において廃止論が先行していたとの話がありましたが、子どもの耳に入ることが問題であると思います。

報告書について、子どもの立場に立った文言があればと思うが、今の内容では、行政や大人としての意見ばかりとなっているがどうでしょうか。

○高島副会長

文書としては「提言書」とするため、ある程度堅苦しい内容となってしまいますが、市長に提言書を渡す際には、口頭で子どもの目線に立った形で伝えていくようにしたいと思います。

また、児童館のあり方の検討においては、部会の委員や子ども子育て会議の委員となっていますが、市民の一人でもあります。

地域の中で、廃止としての意見が先行していることで、子どもを中心として検討した中ではあっても、地域や児童館構成員からしてみると、委員が決定したという風に見られることを理解してもらいたいし、最終的な決定は市であることを再度認識してもらいたいと思います。

現状としては、児童館と併設している放課後児童クラブの関係にも繋がってきていますし、子ども達においても一緒に遊ぶことについて問題となっている部分もあり、課題が山積となっている状況を理解しておいていただきたいと思います。

○永見委員

益田児童館の年間の利用者数が多くなっていますが、これは「子ども奴」等の伝統的な行事によるものだと思います。

子どもの視点について、児童館の評価の中で、運営委員会の役割をどのように思っているかを保護者に対して収集することも出来るのではないかと思います。

○高島委員

子ども奴については、とてもよい事業だと思いますが、児童館に子どもが来ないという現実もあります。

事業の継続を児童館の館長さんも願っておられますが、今は放課後児童クラブの子ども達が担っている部分もあります。

実際には、支援員の方も変更となり手伝えることが難しく、来年以降の事業の実施が困難であるという話も伺っています。

放課後児童クラブの子ども達や保育園の園児達についても、行事への参加意欲が下火となっており、保護者の方の意識や子ども達の参加に対する援助等も難しくなっている現実があるように感じており、大きな課題となっているとお聞きしています。

○石橋会長

児童館の話聞いてみると、とても難しい問題であり、実情を知れば知るほど地域の特色や放課後児童クラブとの関係等があり、判断が困難であると思っています。

皆さんの意見を踏まえて、提言書として提出する際には、少しでも言葉で伝えられたらと思います。

子どものためということが一番大事なところであると思いますので、その部分の方向性を今ある放課後児童クラブや地域の活動と上手く融合して、子ども達の中心の施設として活用できればと思っています。

○石川課長

母親クラブが全国的に衰退しているとお聞きしましたが、県内の状況はどのようになっていますでしょうか。

○山下委員

10年前ほどに調査したことがありますが、現在の状況は把握しておりません。

○石川課長

母親クラブについては、4つの児童館の中にあり、今年度から補助金の削減をしている状況となっています。

国の補助金についてもカットとなりましたが、市については直ぐに止められない現状がありますが、市の全体的な補助金の見直しがあり削減しているところです。

母親クラブ自体の活動について、児童館の活動と一緒にしている部分があり、母親クラブ自体の活動としては見えてこないところがあります。

そのあたりについての見直しも必要であると思いましたが現状についてお伺いしました。

○山下委員

新しいものを導入する際に、古いものをどう整理するかということになると思います。

人づくり政策の頃に、母子保健法が改正されて、政府の新しい子育ての普及活動の中で、母親クラブが作られたとありました。

国についても、かなりの補助金を出したことにより人数が増えており、女性の就労家庭が増え、新しいタイプの自主的な活動も出来ており、徐々に特段的な啓蒙的なクラブ等も都市部を中心に出来てきています。

同じ機能を持ったものがあれば、形にこだわる必要はないと思いますので、その部分についての分析が必要だと思います。

新しいものが出来たときに、全員の意見が一致することはありませんので、色々な情報を周知した後に、利用者の家庭がどう思っているかの意識調査も実施する必要があると思います。

情報が行き渡らない時に調査する必要はなく、一年おきに意見集約することなので、データとしてサンプリングしていけばよいと思います。

アクションプランが上手くいき、放課後の過ごし方やつろうて子育てによるイメージが共有されるようになると、児童館にこだわらず、こういう子育ての仕方があると、認識できるのではないかと思います。

そういう「新しい・面白い・こちらの方が子どもにとってきっと楽しいだろう」ということが無い限り、住民としては乗り換えることが難しいと思います。

○石橋会長

お話があったように、この3年間で肝になると思っています。

集約を1年ごとに実施して、次の目標を立てて、それを実行していくということが、これからの大変な作業になると思います。

いきなり無くすということについては、何事も抵抗があり、絡みが多ければ多いほど、大変になると思います。

今回は、2年・3年として若干短くなるという形で、提言としていくことにはなりますが、最終的には市長（市）の判断で決定してもらい、今後はこの子ども子育て会議で経過を見ていきながら変えていければと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員全員

よい（頷き）

○石橋会長

それでは、提言書については若干の修正をした後、来月市長に会長と副会長とで提言書として提出したいと思います。

その後の経過については、別途報告させていただければと思いますのでよろしくお願ひします。

～議事3【その他】～

○石橋会長

次回の会議開催についてですが、事務局からお願いします。

○齋藤係長

次回の会議開催についてですが、今回の議事の内容について継続となっている部分もあります。また、今年5月に開催しました子ども子育て会議において、子ども子育て支援事業計画の評価を実施していただいたところですが、評価の仕方に関して模索して実施したこともあり、次年度に向けた評価のやり方について、再度検討する必要があると思っています。

次回の開催については、来年に入ったところで早めに調整をして、評価の方法や一年間の評価に向けた議題も含めた開催をお願いできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

○石橋会長

以上で、第10回子ども・子育て会議は終了させていただきます。

ありがとうございました。